

絵描き井上ヤスミチの 4月「なものがすきでして」⑨

生き物絵地図を作ろう というワークショップ

今回は、「生き物絵地図ワークショップ」の話。僕は時々イベントなどでそこに居合わせた人々と一緒に絵を描いたり工作をして体験を持ち帰ってもらう、ワークショップというものを企画運営することがあります。

今回お話しする生き物絵地図ワークショップは、2020年の秋に千葉県の手賀沼で自然観察と屋外のアクティビティがセットになったイベントに参加するにあたって企画したのが始まり。あらかじめ、僕が2～3mほどの大きな紙に会場の地図を描いておき、参加者が当日そこで生き物を探し、見つけた生き物の絵を地図に描き入れます。地図のなかの、実際に生き物がいた地点にその生き物の絵を描くことで、例えばこの茂みにはバッタがいたとか、ここの岩陰にはカエルがいたとか、極々ローカルな小さな範囲の中でどういう生き物がどこにいたというのが視覚的に伝わる仕組みです。

実際にやってみてわかったのは、虫を捕まえてくると参加する人と、絵を描きたくて参加する人が必ずしも一致しないということ。僕がたまたま両方好きなので面白いだろうと企画しましたが「虫は好きだけど絵を描くのは嫌い」「絵は好きだけど虫は苦手」という人が当然います。なので、自分で捕まえてきた生き物を描こう、だとハードルが高く、両方しっかりやらなくてもすむような感じで参加へのハードルをゆるめにすることが大事。生き物か絵のどっちかが好きならなんとなく参加できちゃって、そのうち苦手意識を持っていたほうにも関心がわく、というのが理想的。絵を描くのは好きだったけど、なんか生き物もちよっと面白いなと思った、というふうには。

あと、絵をしっかりと書きたい子は鉛筆で下書きもしたいし間違えたら消したいし、ゼロからやり直したいこともあるので、取り換えがきかない絵地図に直接描かせるのはかなりのプレッシャー。小さいカードをたくさん用意してそれに描いてもらい、絵の余白を切り、地図上の見つけた地点に描いた生き物カードを貼ってもらう形が良いなと思いました。

その際に分かる範囲で良いので生き物の名前を書くことにする。乳幼児さんの何が描いてあるかわからないモジャモジャな絵でも「ちょうちょ」と文字が書いてあれば「ああ、そこにちょうちょがいたのね」と伝わる。

もう一つ感じたのが、生き物担当がいると大変心強いということ。手賀沼では生き物大好きな小学生があちこちからいろいろな虫を捕まえてきて教えてくれたので大変助かったけど、彼がいなかったら大変だったろうなと。



網島の大規模マンションで。生き物担当の大島さんと移住者のお子さんたち

どこかで第二弾をやってみたいなと思っていたら、網島の大規模マンションで居住者のお子さん向けのイベントを企画する会社のかたからオファーがあり、生き物担当者として「千葉の昆虫図鑑」という本を出されている詩人でネイチャーガイドの大島健夫さんと呼んでくださることに。大島さん

と子どもたちが大規模マンションの敷地内を探検しながら生き物探しツアーをして、その後カードに印象に残った生き物の絵を描いて貼る、という形で実施しました。

大島さんは色々な虫を見つけては子どもたちに紹介してくれて、子どもたちが見つけたよくわからない虫も瞬時に詳しい名前を教えてくれて、マンションの敷地内にこれだけの生き物がいるのかと驚く多様な生き物絵地図が完成しました。

また、今年の5月からは、僕の家近くの雑司が谷公園で月に一度開催されている外遊びの会「ぞうしがやプレーパーク」で、春夏秋と継続してカードを追加していく生き物絵地図も展開中。カードに描いた日の日付けを入れることで、5月にはこんな生き物がいた、6月にはここにこんな色の紫陽花が咲いていた、ということがよくわかります。

プレーパークにも生き物に詳しいスタッフや、その知り合いの生き物好きな人が集まってきていて、参加している虫好きのちびっこたちとの年齢を越えた生き物好き人間どうしの交流が、見ていて面白いです。

僕でなくても、やる気と仲間がいればわりとどこでも誰でもやれる企画だと思います。夏～秋は生き物がたくさん。あなたの町でもやってみてはいかがでしょうか？

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>